

【 37 】

氏名	木 村 正 司
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1639 号
学位授与の日付	昭和61年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	健常成人の体表面心臓電位分布図 — QRS 波について —
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

体表面心臓電位図解釈の基礎となるべき年齢、性別の正常基準を設定し、電位図における性差、年齢差を検討するために、日本人健康成人男子93名、女子83名の計176 名を対象として電位図を記録し、QRS波について分析をおこなった。

心室興奮開始後10, 30, 50, 70msec. の各時点でのmean map の比較では、零電位線の分布様式や極大、極小の位置については、性、年齢による差は見られず、同時点における陽性電位、陰性電位の大きさは各年代群ともに男性の方が大きかった。

Breakthrough 認識率は男女とも加齢とともに減少する傾向が見られ、その認識時間は男女とも年代による差は見られなかった。

各誘導点における最大陽性電位の比較において、男性では左前胸部から背部にかけて加齢とともに減高するのに対し、女性では加齢とともに増高する傾向が見られた。

これらの事より、電位図での心疾患の診断の際には年齢、性を考慮した正常基準をふまえたうえでの診断が必要であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は健常成人の体表面心臓電位分布図について研究したものであるが、従来十分検討されていなかった正常人の電位図についてQRS波を中心に分析を行ったところ、右室心外膜面への興奮到達をあらわすとされるBreakthrough認識率は加齢とともに減少傾向があり、最大陽性電位の比較では加齢で男は減高し、女は増高する傾向を認め、電位図での心疾患の診断の基礎に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。